

柏市こども発達センター(医療型児童発達支援センター)第三者評価

令和8年3月19日に実施した柏市こども発達センターキッズルームこすもすの評価結果は下記のとおり。

環境・体制整備

- ・こどもが活動するスペース等、国の基準に則した面積が確保されています。
- ・こどもにわかりやすく写真や絵カードを使い構造化された環境になっています。

業務改善

- ・肢体不自由児の関わりが初めての職員が増えたという事で、大変だったと思われます。装具の着用の仕方や実際のこどもの動きを通して具体的な研修を実施し、職員の資質向上に努めていました。

適切な支援の提供

- ・児童発達支援ガイドライン及びこどもの発達段階に合わせた支援計画を作成し、適切な支援が行われています。
- ・支援開始前と支援終了後に打合せが行われており、チームで連携し支援が行われています。

関係機関や保護者との連携

- ・保護者研修や懇談会を実施し、保護者へ情報提供が行われています。
- ・関係機関や地域との交流については、体調の問題や人数が少ないという難しさはありますが、外に出ることで交流の機会が得られたり、関係機関や地域からの理解を得られますので、今後、計画されていくと良いと思います。

保護者への説明等

- ・父母の会はなくなりましたが、卒園児保護者との懇談会を実施し保護者同士の仲間づくりや情報提供、また通ったことで良かったこと等を伝える機会が設けられ、保護者支援が行われています。また、欠席された方へも伝えられるように配慮されています。
- ・出席人数が少ないということで、柔軟な受け入れをしていたり、こどもの小さな変化を共有したりする等、細やかな保護者支援を行っています。

非常時等の対応

- ・避難訓練は毎月設定を変えて行われていますが、詳細がわからないという保護者が見受けられます。実施している日に欠席していたという難しさはあると思いますが、ホームページやおたより等を通じて周知出来ると良いと思います。

総合評価

- ・子どもや保護者に合わせた支援が丁寧に行われており、保護者からも満足した意見が得られており、充実していることがうかがえます。
- ・今後、さらに充実させるために兄弟支援や保護者同士の交流、ICTの導入等を検討し取り組んでいくことでより充実したセンターになると思われます。
- ・来年度は、福祉型と医療型を一元化することで、単独通園を実施していくことと思います。単独通園と親子通園の良いところを取り入れながら実施に向けていただければと思います。
- ・中核的機能の役割として、他事業所の職員の資質向上のため、研修を計画、開催されており十分に役割を果たしています。今後も柏市子ども発達センターの持っている強みを活かし地域の事業所の資質向上のため努めていただければと思います。

松戸市五香西3丁目7番地の1

松戸市子ども発達センター

所長 廣瀬 英樹